

# 六角橋商店街の音環境の実測調査

安田研究室

200702827

潮崎 龍一

**研究概要:**六角橋商店街の音環境の実測調査を行った。音環境の物理的な特性を得るため、普通騒音計 NL-22 (RION) を用い、8時から20時まで1時間毎に10分間、計12回の測定結果から  $L_{Aeq}$  (等価騒音レベル) などを測定した。同時に音環境の意味的な特性を得るため、10分間を10秒毎に60個の時間単位に区切り、聞き取れた音の種類を記録した。2つの調査により音環境を読み取った。

**研究目的:**商店街には様々な建築が建ち並んでいる。そこでの音環境は時間帯、音の種類、人通りや交通量によって様々に変化し、商店街の印象に大きく寄与する。本研究の目的は、環境音の種類や騒音レベルの調査を通して本学構成員にとって身近な六角橋商店街の音環境の実態を探ることである。

**研究成果:**六角橋商店街の大通りと仲見世通りを調査対象とした。図1に示すように大通りではA~C地点、仲見世通りではD~F地点の6つの測定点を設定した。図2はD地点における測定の様子である。

$L_{Aeq}$  (等価騒音レベル) の時間変動を図3、4に示す。図3は  $L_{Aeq}$  が最大値を示した大通り平日、図4は  $L_{Aeq}$  が最小値を示した仲見世通り休日のデータである。また  $L_{Aeq}$  が最大値、最小値を示した地点での音事象の時間変動をそれぞれ図5、6に示す。

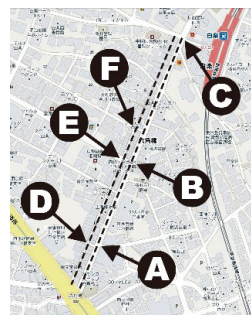


図1 測定地点



図2 測定の様子

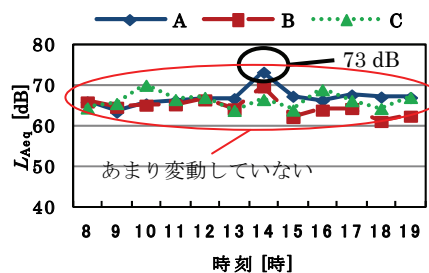


図3 大通り (平日)

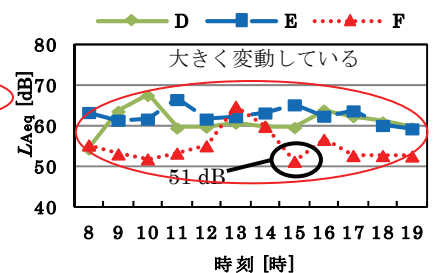


図4 仲見世通り (休日)

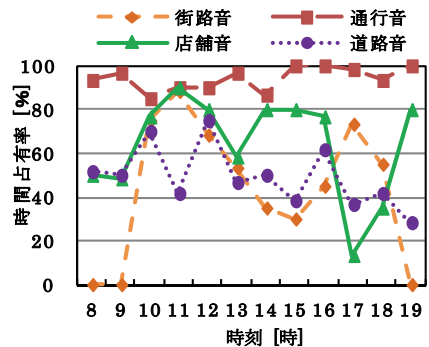


図5 A地点 (平日)

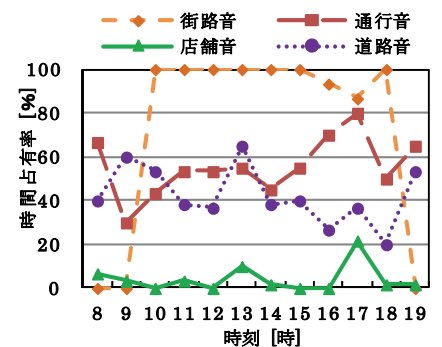


図6 F地点 (休日)

## 結論

大通りでは車や人の往来などにより  $L_{Aeq}$  が安定していたが仲見世通りでは店舗音や人通りの関係で  $L_{Aeq}$  の大小の差が大きいこと、両通りともに  $L_{Aeq}$  の時間変動に対してBGMなどの街路音はあまり影響がなく、通行、店舗、道路音といった人、乗り物などが大きく影響していることがわかった。

**感想:** 野外調査であったため、雨、暑さ、寒さなど天候に悩まされた (火事などにも・・・)。

また8時から20時までの長時間測定であったため人員の確保が大変であった。ご指導していただいた先生方、測定に協力していただいた方々に心より感謝いたします。